

2017年度は特別支援学校卒業生 1 名の新入利用者を迎えスタートした。各班利用者数 10 名～17 名、各班職員 4 名～6 名体制で、活動に取り組み、日中活動を実施した。(軽作業班 17 名、手工芸班 14 名、園芸班 13 名、秋篠パン工房 11 名)

日中活動としては、大きな変更はなく、例年通りの活動内容、活動場所となる。年度途中の新規利用者はおらず、数名の退所者(家庭の理由により施設入所や他事業所への異動)があり、3 月末では、生活介護利用者 40 名、就労継続支援事業 B 型利用者 14 名となった。

職員の新規採用については、年度途中に、正職員 2 名、パートタイムでの勤務する職員を数名採用し、職員の強化を図る。退職職員は、年度途中に正職員 1 名、3 月末で正職員 1 名が一身上の都合により退職した。

【生活介護事業】

軽作業班

内職作業を中心に活動し、例年通りの活動を実施する。感覚的なしんどさのある(視覚、聴覚)利用者へは、パーテーションを使用したり、机や椅子の配置を変更したり、イヤーマフを着用したりと工夫しながら環境調整を行った。物理的な環境調整が必要な方は、個人ワークスペースでの作業でパーソナルスペースの確保、作業活動の提供を行う。

様々な内職作業に取り組むことで、やりがいや達成感にも繋がり、利用者一人一人が自信を持って作業する姿がみられた。気候が良い日などは、ウォーキングやクリーン作戦(地域の清掃)なども取り入れ、室内活動だけに偏ることなくリフレッシュを兼ねての戸外での活動も定期的に取り入れた。また、活動の内容において選択制も取り入れ、自分で作業や活動を決められるよう、利用者の気持ちを確認しながら日中活動を過ごした。

手工芸班

紙漉きを中心に日中活動を進める。和紙商品やカレンダーにも力を入れながら、バザーやイベントなどに出品した。週に 1 度は外出できるような活動(図書館、外出)も取り入れ、リフレッシュ出来るよう活動の組み立てを行う。

特別支援学校卒業生が 1 名新しく加わり、学校やご家族との連携を図りながら施設での生活に移行していった。当初は、本人の中でも戸惑いや不安が多くあったが、スケジュールの確認、楽しみの給食、わかりやすい作業の提供、休憩場所の確保等を行うことで、安心につながり、大きく調子を崩すこともなく施設での生活に慣れた様子であった。必要に応じて、ご家族との連携や相談をしながら本人の思いや気持ちの確認を行った。

他の利用者も自分で作業や活動スペースを決め、作業に取り組む姿があった。自分の思いや考えていることを話してくれる利用者も多く、一つひとつを大切に受け止め、個別に対応することで理解につながり、不安や混乱がないよう丁寧な関わりを心がけた。

利用者のペースを大切にし、焦らずゆっくりと関わり、「待つ」「聞く」といったことを中心に信頼関係を築いていった。

園芸班

畑作業や内職作業を中心に幅広く作業や活動を実施する。利用者もその日の活動内容の選択肢があることで、作業を自ら選び進んで取り組むことができ、本人のやりがいや達成感につながっていった。また、園芸班ならではの、畑作業での季節感を感じながらの活動や室内での内職活動とメリハリのある活動を行った。

新しい活動場所にも早く慣れた様子で、狭いが静かで落ち着いた空間で過ごすことにより、より一層作業へ集中でき、仲間意識を育みながらコミュニケーションを図り、信頼関係を深めていった。

【就労継続支援事業 B 型】

秋篠パン工房

利用者の減員、増員はなく、28年度に引き継いだ形でのスタートとなった。メンバーの出勤率も時期によって下がるものの、29年度全体で見ると出勤率も挙がり、利用者自身仕事への意識が高まってきているようであった。その中で、年度途中には正職員 1 名を採用し、パンの製造量を増やし売り上げの向上を図った。また、利用者と一緒に販売、配達に行く機会を増やし、工房、喫茶以外での仕事を提供した。

利用者が自らの持ち場で作業を行い、任された仕事を集中して取り組み、工房内でスムーズに作業が運ばれていき、量産にもつながっていった。また、職員と利用者とのコミュニケーションを深め、これからやってみたい作業内容、頑張っていきたいこと等を話し合いながら、利用者自身の活動目標が持つよう振り返り等を行った。

利用者も職員も「自分が仕事の主役であり、自分たちが頑張ってお客さんに来て頂く、美味しいパンを提供する」といったことを目標に、日々の仕事へ取り組んでいけるよう取り組んでいった。

商品開発等は季節感に合わせながら、その都度、工夫を凝らし積極的に進め、ホテル、レストラン、幼稚園等への受注も継続しながら販売、配達業務に取り組んだ。

一般就労を目指す利用者に関しては、継続して大学内の清掃に取り組み、責任を持って仕事に励む姿があった。さらに、ハローワークや採用面接にも同行し、数名が一般就労に向けて取り組んでいる状況である。引き続き、就職を希望される方のスキルアップや就職、実習先の確保に努める。

○就職者へのフォローアップ

29年度も引き続き、定期的な就職先への訪問を続け、その都度本人の悩みや不安等の話を聞いたり、就職先の担当者との話し合いの場をもった。その時期その時期で肉体的、精神的に浮き沈みはあるものの、本人、支援者、ふーぷ（相談支援）がチームとなり連携を図りつつ、フォローアップに努めた。1 名は、転職に伴い、関係機関との連絡、連携、就職先への同行等を行い、スムーズに移行する。今後も就職者への更なる定着を続けていく。

【短期入所事業】

例年通り、毎週金曜日隔週（男性、女性）に実施した。ニーズは非常に多くあり、申し込みがあっても受けられないこともあった。新規利用者は少数となり、ある程度固定した利用者からの申し込みが多かった。利用者自身は、料理や外食を楽しみ、良い表情で過ごしていた。

緊急短期入所利用（冠婚葬祭等）についても回数は多くないが、年間で何件かありその都度対応した。

【日中一時支援事業】

生活介護の利用者の利用ができなくなり、主に元利用者で現就職されている人たちが利用することが多い。あゆみには毎日利用しなくなったが、自分の仕事の休日に各班活動に参加したり、イベントに参加したり、と幅をもった形での実施となった。慣れ親しんだ安心できる環境の中で仲間と楽しく過ごすことで、リフレッシュしたり、コミュニケーションを楽しむことができた。

総評

生活介護事業においては、生きがいややりがい等を持てるよう作業や活動の提供、就労継続支援事業 B 型は、働き甲斐のある仕事の提供を行った。大きく変わるようなことはなく、利用者のストレングス（強み）を引き出しながら、日々の支援にあたり、エンパワメントできるよう職員間の情報の共有、チーム連携を図った。

班会議や班長会議、全体会議の充実に努め、各班での課題の共有、ケース検討会、研修会等を実施し、職員のスキルアップを図った。その中で、一つのケースを多面的に多角的に捉えていけるよう、意見交換しながら日々の支援を行った。それらを進める中で、環境の調整が必要な方や支援方法の見直しが必要な方等、検討できる機会となり、日々の支援の充実に繋がっていった。

職員の面談は、必要に応じて行い、半年に 1 回の個別面談は全職員へ必須とし、職員自身の課題、目標等を確認の上、モチベーションアップやスキルアップの機会とした。

地域交流においては、例年通り地域の学校の交流会や学生の職場体験を中心にバザーや地域のイベントにも参加し、風通しが良くなるよう心掛けた。介護等体験においては、10 数名の体験があり、利用者も新しい出会いや経験、体験を喜んでいただいているように思う。

29 年度もあゆみの会の理念を大切にしながら、支えあう仲間の関係を築き、信頼関係を深めながら日々の作業や活動、暮らしの充実に努めた。

以上